

# 「看護の仕事で海外に」?

## 実は…自衛官募集

「リクルートの看護師転職パートナー」をうたった「ナースフル」のメールマガジンの記事の一部

自衛官として、海外に派遣されることもあるそうですね。

2012年1月下旬から6月上旬まで約4か月間、派遣海賊対処行動航空隊の衛生班員として。業務内容は、海賊の監視業務に当たる飛行隊の搭乗員や航空機の整備に当たる整備員など多岐にわたりますが、一番多い症状は、実は皮膚疾患なんです。気温50℃を越え、水田に悩まされることも多くあります。また、熱中症や胃腸炎なども多いですね。

種々の症状に対応するために平屋のコンテナハウスに設置された医療室では、医官による診察が行われておらず、夜間の呼び出しも少なくありません。メンバーでうまく回るとか仕事を回していました。

海上自衛隊は伝統的に金曜日の昼食はカレーですが、遠く日本から離れたシブチでも同じにするためにも、食事は非常に大切です。ヘトヘトに疲れた夜、お刺身が出てきたときは、今年マレーシアで行われた、大規模な災害訓練にも参加されたそうですね。

第4回ARF (ASEAN地域フォーラム) 災害救援実動演習のことですね。マレーシア北部

## 転職支援サイトにどきり



「看護の心と技術で国を護(まも)る、自衛官ナース」―看護という専門性を、国内、世界で広く生かしたいという志のある方にはもってこいの仕事です―。

看護師の真知子さん(仮名、30代)は、10月、登録している看護師の転職支援、求人サイトから送られてきたメールマガジンの記事にくぎ付けになりました。

「現場インタビュー／私の転職」と題して、現役自衛官が顔写真入りで

「看護の仕事もできて、船にも乗れて、海外にもいける!」と自衛官に転職した経緯を2回にわたって紹介。2012年に「派遣海賊対処行動航空隊の衛生班員」としてアフリカのシブチ共和国に派遣された体験などにもふれ、「採用されれば、国内外の被災地へ医療支援にいく機会が多いと思う」などと語っています。

戦争法が自民・公明政権によって強行された直後のインタビュー掲載に、真知子さんは不安を募らせます。

「米軍基地内の米海軍横須賀病院と自衛隊横須賀病院が毎年合同で、『日米衛生特別訓練』を実施していることなども書かれていて、一体どんな訓練だろうと驚いた」といいます。

「海外で活躍」など、甘い言葉で気軽に看護師を自衛隊に誘い、戦地に送られることもありうる危険感をもっていません。ほかの医療職や、さまざまな職種で似たようなことが起きているのではないのでしょうか」

同サイトは、「リクルートの看護師転職パートナー」をうたった「ナースフル」のメールマガジンの記事の一部。運営は医療人材紹介の(株)リクルートメディカルキャリア。同社広報によると、自衛官ナースの記事掲載は今回が初めてといえます。

本紙の取材に、防衛省からの依頼については否定的、編集部で企画し、登録会員に協力を呼びかけてインタビューしたものです。安保法制成立と时期的に重なってしまいい、少し配慮に欠けたと考えている。今後、自衛官ナースに限って記事を載せる予定はない」と答えました。